

住みごこち一番・可児 —～安心、元気、楽しいまち～の推進



特別寄稿

「市制40周年にあたって、これからの人権政策」

可児市長 富田成輝



可児市人権啓発センターが設立30周年を経られ、永きにわたり人権啓発活動に携わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。

可児市は今年、市制施行40周年にあたります。「#ハッシュタグ」可児市40〜10年後につなげよう、市民の笑顔〜」をテーマに市民、事業者、行政が一緒になって可児市の魅力を次の世代につなげていく取り組みを進めているところです。人権啓発活動はこれまでも長い間、多くの方々により行われてきましたが、現在においても新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見、デマ、嫌がらせ、また、いじめや虐待、DV、そしてロシアにおけるウクライナ侵攻による人権侵害等深刻な状況と言えます。

市民の皆様の人権が尊重されることが、市民生活の平和を守るためのあらゆる政策の基礎であり、市制施行40周年のテーマにもあります「市民の笑顔」へとつながるものと信じております。

この機関紙「ぬくもり」のように、人と人との「ぬくもり」のある新しいつながりが生まれる場が増えることを願い、どのような事態においても、人権が尊重される社会であるために、可児市人権啓発センターには、引き続き着実な取り組みをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、人権尊重の気運の更なる高まりとともに、貴センター皆様の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

目次

- 特別寄稿 ①
「ぬくもり」 可児市長 富田成輝
- コーナー ④
心のドア ちょっといい話、「標語と300字小説」募集
「高齢者の人権講演会」募集、ぬくもりまゆちゃん³⁹
啓発のひかり
- 令和4年度の活動計画 ②
- 特集 女性の人権 ③

令和4年度の活動計画

市民への広報・啓発活動を行い、人権尊重の理念をさらに深めていく活動を展開していきます。

目標 啓発人口:10,000名/年

重点 持続可能な開発目標(SDGs)
「誰一人取り残さない」ことを誓って！
「子どもと全ての世代の人への人権の取り組み」

人権相談



ご相談ください。コーディネートします！

学校・企業啓発・勉強会



小中学校「人権教育サポート」

子どもぬくもり教室



“相手への思いやりの心”を大切に！
令和3年度開催校:帷子小学校・兼山小学校

ぬくもり講演会



「高齢者の人権講演会」高齢者の心元気に!

ぬくもり標語・300字小説募集



応募総数:2,878点(入賞作品展示会)

街頭啓発活動



人権本巡回制度 (ぬくもりボックス・フロー)

- ぬくもり本(人権本)を巡回
- 児童用(75冊)
- 1ヶ月毎に巡回



「ぬくもりまゆちゃん」のしおりをプレゼントします。

機関紙(ぬくもり) (全戸配布・年3回)



人権マンガ「ぬくもりまゆちゃん」を連載

令和3年度活動報告
1万人啓発目標
達成!
啓発人口
13,177名

人権週間(12月4日～10日)



人権啓発旗掲示(市役所本館玄関等)

マンガまつり(人権マンガ)



福祉センター・市役所・帷子地区センター

ホームページ

- センターの沿革
- お知らせ
- 心のビタミン
- 活動報告
- ぬくもり4コマ「マンガ」



継続発信

特集 女性の人権

女性の人権状況

日本国憲法には、男女平等の理念が明記されており、雇用の分野では男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、女性活躍推進法などにおいて男女平等の原則が確立されています。

男女平等参画に向けた取り組みが進められていますが、様々な課題などもあります。

例えば、雇用の分野では管理職に占める女性割合が少ないことなどは、職場において男女差別を生む原因となっています。

また、性犯罪、配偶者等からの暴力、ストーカー行為、セクシャルハラスメントなど人権侵害も発生しています。

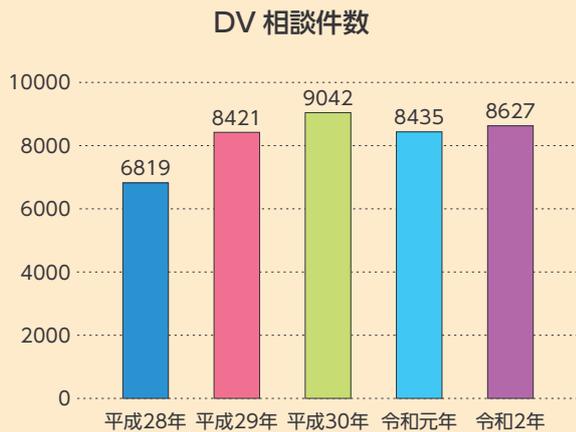
女性だからという理由で、差別されたりすることは決して許されるものではありません。

配偶者からの暴力事案の概況

配偶者からの暴力相談等受理状況

相談件数の推移

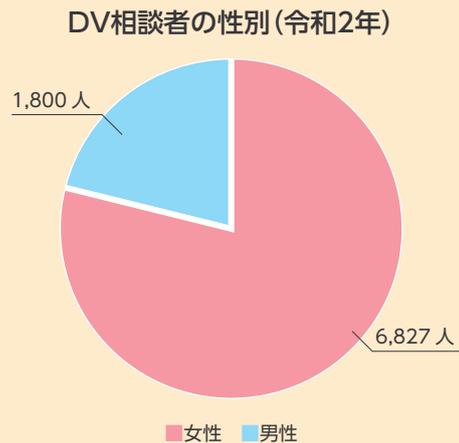
配偶者からの暴力相談等の相談件数は、8,627件(令和2年)
出典：警視庁 配偶者からの暴力事案概況



DV事案の分析

相談者の性別

相談者の性別は女性からの相談が6,827件で、男性の相談は1,800件です(令和2年) 出典：警視庁 配偶者からの暴力事案概況



男女平等参画社会を目指して

・男女が互いに人権尊重を目指して、「男性だから、女性だから」のイメージにあてはめることなく、一人ひとりが持っている個性や能力が発揮でき、喜びや責任を分かち合うことのできる社会づくりが必要です。

差別にある人が、孤立せずに問題をみんなのものとする考えを持ち、これまで差別の立場にあった人が、生き生きと生きていけるよう、人権という考えが人々の間に普及し定着していけるように、自分の考えも見直していくことが大切です。

ひとりで悩まず電話を！ (法務省)

夫・パートナーからの暴力、職場でのいじめやセクシュアルハラスメント、ストーカーなど女性をめぐる様々な人権問題についての相談受付電話

女性の人権ホットライン
ゼロ・ナナ・ゼロのホットライン
0570-070-810

岐阜県
男女共同参画・女性の活躍支援センター

相談専用 **058-278-0858**

秘密厳守・相談料無料

心のドア
ちょっと
いい話



絆はエンドレス

ぬくもり まゆちゃん 39

〈思いやりの心・あつてこそ〉
作・画：miho



(当センター職員による作品です)

★昨年12月いつもよりかなり遅く種をまいたので芽が出てくれるかと心配しつつ、それでも年末には芽を出し、それから少しずつ成長し花をつけ4月には実になりはじめた。毎朝豆を見るのが日課となり、5月のはじめ実がふくらんだのを確認し収穫。紫のさやをむくと中は緑の豆、さっそくご飯を炊いた。炊き上がったすぐは普通のグリーンピースご飯、最低6時間は保温しないと赤くならない。それまではガマンガマン！！

この豆に出会ったのは10数年前、隣の畑で作ってみえた方にいただいたのが最初。それから何年かはとれた豆をいただいていたのですが一度自分でつくってみたらといわれ、みようまみねで作りはじめた。

その方のお話しでは京都が実家で、そこでつくってみえたお友達にわけてもらってはじめてとの事。今はもうその方は畑をやめられ、私だけがつくっている。もちろん収穫した豆はその方におすそわけ。

私はいつまでこの豆をつくる事ができるかわからない。せつかつながってきた豆づくり、誰かに伝える事が出来るかな？

京都から岐阜へ。そして…。野菜作りを通して、人と人との縁がつながっていく。これからも「縁の糸」を紡いでいきたい。(m・k)



募集

ぬくもり人権啓発
「標語と300字小説」

第22回

- テーマ 道徳的な「感謝・希望・勇気・友情」の大切さ、尊厳について
- *小説は題名、会話を入れること
- 応募資格 市内在住の人(小中学生)(高・一般)
- 応募方法 はがきの表に住所・氏名・電話、裏に作品(小説1点、標語2点まで)
- 応募締切 9月2日(消印有効)
- 入賞作品数 標語30点・小説7点
- 入賞発表 11月初旬本人通知
- (小中学生は、学校から)
- 作品展示(入賞作品) 人権週間前後(11月28日～12月15日)に市図書館で展示。また機関紙「ぬくもり」等に掲載
- *入賞者には、表彰状と図書カードを贈呈
- *小中学生は学校を通して応募してください。
- あて先 本センター宛(本表紙に参照)

募集

高齢者の人権講演会

入場無料

「生涯元気に暮らすには!!」

- テーマ 軽度認知症の予防
- 講師 薬袋淳子先生・橋本廣子先生
- 日時 令和4年12月3日(土) 13:00～15:00
- 場所 可児市福祉センター(大ホール)

*詳細は機関紙11月号にて



「啓発のひかり」

★我家は、二世帯で五人家族です。以前は、老後になったら主人と二人、静かに過すと思いをいまして。しかし現在は、中一になった孫と毎日ケンカしたり、ふざけたりと忙しかぎり。宿題もこの年で一緒にやらされたり。そのおかげで私の頭の中は、いつも目まぐるしく回っています。でも、その騒がしい毎日がなぜか楽しく、幸せで、そしてこの日々感謝しつつ、これからも頑張つて生きていきたいです。(m・o)

★本紙の表紙写真の撮影に出掛けた時、いつの間にか木の葉が濃い緑になっているのに気付き、季節が春から夏に変化しているのが感じられた暑い日でした。本センターを支える小さな活動ができることは、張り合いがあり、幸せなことであるとあらためて感じました。(k・i)

★中学生の娘が、学校からぎふ・フラワーコースガーデンのボランティア活動のお便りを貰って来ました。娘「お母さん、花フェスタが新しくなって、ゴミ拾いをするなら、なんと1円で入場出来るんだって!!」まあそんな目的でも、初めてボランティア活動に行こうと思った気持ちが我が子ながら嬉しいなと思うので、ふとお便りに目を通すと…

『清掃箇所…園内 1円』
1円じゃなくて1円(その領域)全体。家族で大爆笑でした。(m・y)

★尊敬する隣家のKさんが、「自分の命は、これまでに父と母・父と母の両親そのまた両親、さかのぼっていくと数えきれない連続と続く命が受け継がれて、自分の命がある。その中のたまたたひりでも欠けていたら、今の自分は存在し得なかった。多くの先祖から受け継がれている。」と、ふとした会話の時に、教えてくれました。

自分の受け継がれてきた大切な命。多くの人たちの繋がりの中で、私たちは生きて生かされています。そして、改めて命の尊厳を感じました。(m・h)